

いい声 いい顔 いい心

主幹だより No.4

文責：城

ついにでた 100%

前号で「靴ならべ」を話題にしました。4月19日（火）、ついに 100%ができました。4年3組です。全員の靴が完璧に並んでいます。チェックした時に「おおっ」と声をあげた私です。早速4年3組に伝えに行くと、みんな喜び、昼休み後も並べようとさらに意欲を高めていました。他のクラスも 100%を目指して頑張りましょう。

話を「きく」のは学習の基礎

学習の様子を見てみると、話をきく力が十分とは言えません。避難訓練の時もそうでした。話をきくのは学習の基礎です。「話す・聞く」とよく言いますが、「きく・話す」（「きく」が先）にとらえたいと私自身は感じています。この4月にしっかり指導してください。きっと子どもの学力向上につながります。

また、「きく」にもいろいろありますよね。

「聞く」・・・一般的なきく

「聴く」・・・身を入れて（意識して）きく

「訊く」・・・たずねる



「聴く」「訊く」がたくさん見られる授業を意識したいですね。くれぐれも鳥の鳴き声がきこえているのと同じように先生や友達の発言が「きこえている」状況にならないように見取る必要があります。

拍手はいつする？

就任式や避難訓練時に拍手をする場面がありましたが、違和感があります。拍手をするときではない場面で拍手が起こるからです。拍手はいつするのでしょうか？

「感謝の思いを伝えるとき」「相手を称えるとき」「歓送迎のとき」などが考えられますね。

先日の避難訓練を例に考えてみましょう。お礼の言葉で生活安全委員長がビル環境さんにお礼を述べました。この時の拍手は必要ありません。児童代表で述べたからです。ここで拍手をすると自分たちに拍手をしていることになります。違和感がありませんか？この場合は代表に合わせて一緒に礼をするのが正解といえるでしょう。校長先生の話の後にも拍手が出ました。これも「校長先生の話、よかったですよー」と言っているようなもので適切ではありません。

TPO に応じた拍手ができるように指導していくのも、私たち教師の役目ですね。

～ティータイム～

「たくさんある」

日本人は他国に比べ、自己肯定感が低いといわれる。担任時代を思い出すと、道徳等で「自分のいいところ」を見つめる学習では、確かに自分の長所がなかなか言えない子どもが多い。「子ども自身に自信をつけること」「周りの寛容さ」の2つが大事になってくると思っている。

先日、娘（中2）の授業参観に行った。懇談会の自己紹介で我が子のいいところも紹介する時間があった。謙遜もあっただろうが、ちょっと考えて発言される保護者もおられた。

私の回答は「うちの娘のいいところは、いつでも、どこでも挨拶ができるところ。勉強と部活の両立をがんばっているところ。外ヅラがいいところ（短所でもある）。」娘のいいところなんてたくさんある。同じくらい短所もある。みんなひっくるめて我が娘だ。

